

はらじゅくかわら版



独立行政法人 国立病院機構 **横浜医療センターの理念**

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



左：スタッフによる小児病棟での七夕かざりつけ



右上下：外来ホールの七夕かざり

第9号 目次

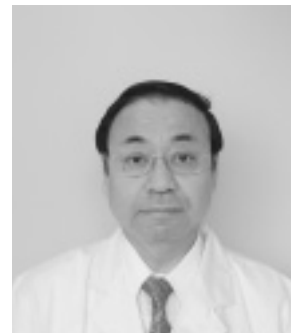
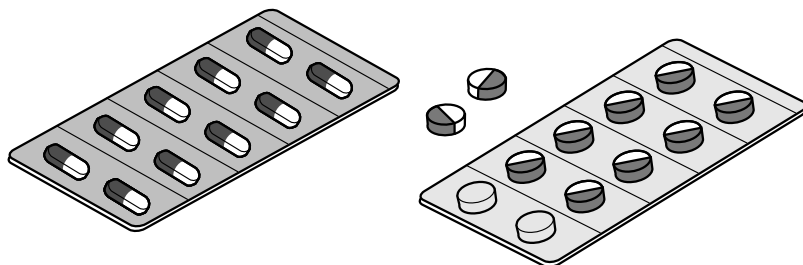
「後発医薬品」についての話題	1
幹部職員就任挨拶	2
地域医療連携	
病診連携施設紹介	3
地域医療連携室から	4
誰にでもできる自己栄養診断	5
お知らせコーナー	
医療安全管理室より/研究会のお知らせ	6
ボランティアの募集	7
シリーズ	
気になる病気	8
職場紹介 — 形成外科・耳鼻咽喉科	9
栄養相談について	10

行事等紹介

第3回糖尿病フェア	11
第8回救急救命士症例検討会のご案内	11
研修医紹介/医師の人事異動	12
消防訓練	13
患者数の動向/編集後記	14
外来担当医表	15

発行 月：平成17年7月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
 広報委員会
 発行責任者：高橋 俊毅
 住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電話：045-851-2621
 FAX：045-851-3902
 URL：<http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>

「後発医薬品」についての話題



薬剤科長 大黒 正夫

皆さんこんにちは。私は今年4月に赴任しました国立病院機構横浜医療センター薬剤科長の大黒と申します。横浜地区の勤務は、現国立病院機構南横浜病院に次いで2回目となり、周囲に顔見知りの方々もいらっしゃって心強く思っています。どうぞよろしくお願い致します。

ところで最近、新聞などで後発医薬品についての記事を見かけることがありますが、皆さんはそれについてご存じですか。この紙面をお借りして少しご説明をします。

日本では病院で使われるお薬の値段は国によって決められていますが、それを薬価といいます。製薬会社が開発してヒトに使えるようになるまでには相当の時間と開発費がかかるため、薬価も高く設定されるのが一般的です。また開発された新薬には一定の特許期間が認められ、開発した製薬会社のみが販売が可能となります。そのためその間はお薬の値段はあまり安くなりません。

ところが、特許期間が切れた後はどの製薬会社でも同一の成分のお薬を製造・販売することができるようになります。すでに製造についての技術や安全性、有効性などが周知されていますから、後から参入してきた製薬会社の開発費は少なくて済むため薬価も安くなります。むろん国が承認していて安全性、有効性に変わりありません。それを後発医薬品といいます。

どのくらい薬価が安くなるかはそのお薬によって違いますが、先に販売されたお薬の2割～7割と随分差があり、その分皆さんのお薬代や国の医療費の負担が少なくなるわけです。

当院でも後発医薬品は96品目を使用しており、採用品目の多い病院です。このような後発医薬品をはじめとしたお薬についての情報は専門の薬剤師が詳しく知っていますので、ご来院の際、薬剤師にご遠慮なくお尋ねをお願いします。

就任挨拶

事務部長 香西 英夫

4月1日付で村山医療センターよりまいりました香西でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

神奈川県の基幹施設である横浜医療センターの皆様と勤務させていただくこととなり大変光栄に思っております。

今、病院経営は量の時代から患者の目線にたった、安心できる質の高い医療の提供を求められています。

病院機構の理念はもとより横浜医療センターの理念を念頭に置きながら老朽化した病院の更新築整備をとおして、地域の皆様から信頼される地域完結型医療を整備したいと考えております。

現状の診療機能を維持しながら更なる診療体制強化のためのバックアップを行い、地域の皆様を始め、職員に選ばれる病院にしたいと考えております。

職員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。



看護部長 糸川 章子

～安全を第一に～

4月1日付で千葉医療センターより配置換えで参りました。

着任の頃は桜が満開でしたがすでに初夏の季節を迎えました。

着任早々のJR福地山線脱線脱線事故から運転士さんの一挙一動に興味を持ちましたので、通勤の朝の相模大野駅を紹介します。車両がホームに入って停車します。

- ①腰についている鍵で運転席のドアを開け、②乗務員室に入ると内鍵をかけ、
- ③運転席の計器を二カ所指さし・声だし確認をし、④車両の乗車ドアを開け、
- ⑤前方の信号を指さし・声だし確認をし⑥出発します。

この間に一回車掌による発車時間と行き先の放送が入ります。

- ①～⑥の行動が運転士が毎日変わっても同じ行動が行われています。

医療の場においても「安全」が第一目標です。マニュアルに沿った行動と、危機管理ができるよう、副看護部長はじめ職員の皆様と共に努めて参ります。

どうぞよろしくお願ひ致します。



経営企画室長 小泉 章

4月に群馬県の沼田病院より緑多き横浜医療センターに赴任いたしました。

当院に勤務して3ヶ月が過ぎましたが、その間において16年度決算が確定して収支において黒字となったこと。又、平均在院日数の短縮が図られ、5月から急性期入院加算を取得するとともに、一般病棟入院基本料I-1を取得することができました。

今年は、これらの施設基準を堅持することが重要であると思っておりますので、医療機器稼働状況等と併せて検証を行うことにより収入増加に結びつけていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



地域医療連携

病診連携施設紹介

須田整形外科皮膚科医院

診療科目：整形外科・皮膚科



須田院長（上段、左）

当院は昭和54年須田整形外科皮膚科医院として開業26年になります。当初、救急医療機関として病室を持って地域の救急医療に協力しておりましたが現在は外来だけの診療所として整形外科医皮膚科専門医として地域利用に奉仕しております。うちみ、捻挫、骨折等の急性期の外傷や交通事故、慢性期の頸部痛、肩部痛、腰痛、膝部痛等加齢変化に伴う慢性疾患を中心に、又 月、水、金には小手術（手の外科的手術、バネ指、小軟部腫瘍摘出術等）を行っております。又、皮膚科的疾患（湿疹、かぶれ、水虫、アトピー性皮膚炎等）も月、水、金、土には診療しておりますのでどうぞ気楽にご相談下さい。

今後に於いても病診連携として横浜医療センターにはいろいろご指導いただき、戸塚地域でのホームドクターとしてご奉仕すべく努力していきたいと思います。貴センターの益々の発展を期待致します。



須田整形外科皮膚科医院

〒244-0002 戸塚区矢部町969-39

TEL 045-861-0720

診療時間

整形外科

平日(月～土) 9:00～11:45 14:00～18:15(土曜は午前のみ)

土曜 9:00～11:45

皮膚科

月・水・金・土 9:00～11:45 16:00～18:15(土曜は午前のみ)

休診：日曜日・祝祭日

地域医療連携室から

自分の病気に対して相談にのってくれる地域の身近な「かかりつけ医」は、直接、診断・治療に結びつかなくても治療の糸口を見つけてくださったり、必要なときには「しかるべき病院」を紹介して下さいます。良い医療を受けるためにはとても重要なことです。

当院は、地域のニーズに沿った病院の特色や役割分担を活かし、「かかりつけ医」から紹介された患者様の健康が回復したら、直ちに「かかりつけ医」へ返すような、あるいはまた、他の適切な医療機関へ紹介するような体制を積極的に進めております。そうすることが地域の医療資源を活用することであり、それが質の高い医療サービスにつながることで考えています。

当院の地域医療連携室は、「地域で治そう自分の病気」ということを基に、連携システムを効率的に機能させて、地域の患者様、ご家族が安心して治療の継続と療養とができるよう支援する役割を目指します。



● 業務場所

外来棟 2 階「地域医療連携室」

● 業務内容

- ① Faxで送られてきた患者紹介状の取り扱い（来院日の確認、受診する外来診療科との連絡調整）
 - ② 紹介元医師に対する「来院報告」
 - ③ 逆紹介患者票の送信
 - ④ 紹介患者経過報告書の送付
 - ⑤ CT、MRI、RI、超音波、脳波、心エコーの各検査及び放射線治療の来院日の確認（受付は各検査部署で行っています）
 - ⑥ 看護相談（専任の看護師が相談にのります）
 - ⑦ セカンドオピニオン外来の受け付け
 - ⑧ 近隣の医師会・診療所等に外来診療担当表等を発送
 - ⑨ 近隣救急隊への宿日直勤務表の送信
 - ⑩ 各種統計・集計表の作成
- ※ 当院では、「地域連携ファイル」（地域医療機関の情報を集約したもの）を作成し、逆紹介の推進に努めております。今後もファイルの充実を考えておりますので、地域の先生方にはご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
- ※ 当院へお起しの際は、地域医療連携室へお立ち寄りください。「地域連携医」としてロッカーと白衣をご用意いたします。

- ご意見、ご希望等がございましたら、下記までお寄せ下さい。

地域医療連携室

TEL. 045-853-8355

内線 (2275)

FAX. 045-853-8356

Mail. yokohama-iryuu@oregano.ocn.ne.jp

誰にもできる自己栄養診断

当院栄養管理チームの成果

外科医長 佐藤靖郎



栄養管理チームについては、原宿かわら版、インターネットなどを介して発足の経緯などをお知らせしてきました。

最近NHKなどで取り上げられたように、入院患者様の基本である食べることの大切さが国内的にも広く認知されるようになってきました。

ひるがえって当院の栄養管理チーム（NST）においては昨年6月に発足し様々な活動を行ってきました。

今回、その活動の成果の一つであるどのようにして低栄養状態の患者様をみつけるか？ということについてお話したいと思います。

低栄養の状態の患者さんを効率よくみつけることをスクリーニングといいます。病院には多くの患者様が入院されています。その中で効率よく栄養療法の対象となる患者様を見つけることは大変な作業です。一般的には、検査によるものと主観的な評価（それにもちゃんと項目が国際的に定められています）があります。採血による栄養状態検査の代表格としては血清アルブミンという項目があります。アルブミンは肝臓で作られ、血液中で大事な役目をしています。そのアルブミンを測定することにより、栄養状態が評価できます。ただこの検査は全員にするのは費用の面、また瞬時に栄養状態が判断できないという問題があります。

次に主観的な評価としては、**主観的包括的評価（SGAといいます）**という方法が一般的ですがだれが患者様を評価するのか（いわゆる専門家か否か）によりその正確性が大きく左右されるのが問題です。われわれNSTチームはその問題に正面に取り組みアルブミン検査と主観的な評価との対比を進めた結果、簡単な症状だけでアルブミンの値；患者様の栄養状態を数値である程度当てられるようになってきました。患者様自身にもできるごく簡単なことなのでぜひ試してみてください。ポイントは以下の2つだけです。

- 1 日常生活の動きが制限されるようになってきた。
 - 2 むくみがある。または筋肉が減ってきた。皮下脂肪が減ってきた。
- 1と2がともにある場合低栄養の可能性あります。2がなくとも1がある場合は低栄養予備軍の可能性あります。

我々NSTチームはこれからも役に立つツール（道具）を開発しますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

お知らせコーナー

医療安全管理室より

6月は医療安全推進月間です。全国の医療機関が一斉に医療安全に対する意識を高め、事故を事前に察知して防止する取り組みを行いました。

当院では今年度を『医療安全強化』と位置づけて、院内教育、講演会に医療安全のメッセージを組み込んで実施しています。今年度の新たな取り組みとして安全パトロールを実施しています。

6月の強化月間中は作業部会の医療安全推進者を中心に『指差し声だし確認・患者さまによる名前の復唱!』について、実際にパトロールを行ない、職員一人ひとりが相互に刺激を受けて、意識を高める機会となりました。

先だっては入院されていた患者さまより『K・Y・T（危険予知訓練）』のもっとも初歩的な『指差し呼称』についてしっかりやって欲しいとの投書をいただきました。ご自信の体験でも定着するまでに3～4年を要したとありました。叱咤激励をいただき、あらためて真摯に取り組み実践していきたいと思えます。



スタッフステーションでのパトロールの実際



指差し・声だし確認の実際

横浜医療センター病例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科医長
045-851-2621 (代)

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第3月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松消化器科医長・松島消化器科医長
045-851-2621 (代)

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。

横浜戸塚地域病院循環器疾患研究会

第6回研究会が下記により行われました。地域の9病院・診療所の循環器内科、心臓血管外科医師21名、看護師、臨床検査技師7名の併せて28名が参加し、活発な討論が行われました。情報交換会では各施設の最近の状況、新会員の紹介が行われました。

本研究会が循環器疾患を中心とした病院間の連携を一層推進し、各病院の特徴をもとにした機能分担による循環器疾患の診療連携を通じ地域医療の発展に、さらに役立つことを期待しております。会員相互の交流の場としての役割りも大切にしたいと思っております。

日時：平成17年6月29日(水) 19：15～

場所：戸塚崎陽軒 横浜市戸塚区原宿4-37

演題1 座長(独)国立病院機構 横浜医療センター
循環器科 田中 直秀
短期間の3枝閉塞を生じた若年者発症急性心筋梗塞の1例
大船中央病院内科 福生 有華 三村 実 岡本 淳 森下 健

演題3 座長 聖隷横浜病院循環器内科 望月 俊直
縦隔腫瘍を疑われた遠位弓部大動脈瘤破裂の1例
(独)国立病院機構 横浜医療センター 心臓血管外科 *呼吸器外科
谷保 直仁 東館 雅文 大野 英昭 *坂本 和裕

演題2 座長 大船中央病院内科 森下 健
AMIの長い拡張病変に対し末梢保護下にステントを留置した症例
聖隷横浜病院循環器内科 内田 英二 山口 裕之
中嶋 徹 大塚 正史 望月 俊直

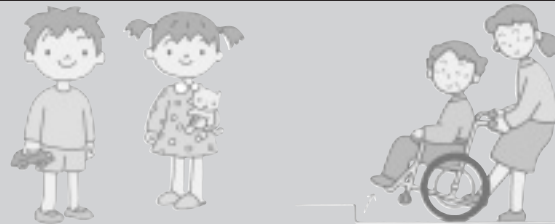
演題4 座長 医療生協かながわ生活観同組合 戸塚病院 端山 雅之
大動脈弁狭窄症狭小弁輪のためApico Aortic Bypassを
施行し、21年間生存した1剖検例
(独)国立病院機構 横浜医療センター 循環器科 岩出 和徳 鈴木 豪
米村 文雄 巽 藤緒 小林 康德 加藤 丈二
田中 直秀 青崎 正彦
同 心臓血管外科 東館 雅文 同 病理部 新野 史
東日本循環器病院 心溶血管センター 小柳 仁

お問い合わせは 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター 青暗 正彦
TEL 045-851-2621

ボランティア してみませんか

活動内容

- ・インフォメーション(案内)
- ・タオルたたみ
- ・花の水かえ
- ・子供の遊び相手
- ・花壇の手入れ
- ・本の整理
- ・車椅子使用者の介助



活動曜日と時間

- ・月曜日～金曜日(休日を除く) 8:30～17:00
2～4時間程度

心構え・その他

- ・ボランティアは心身ともに健康であることが大切です。
- ・ボランティアは16歳以上の方が対象です。
- ・患者さまのプライバシーを守りましょう。
- ・病院の規則や指示に従って活動します。
- ・活動を根気よく続けることに意義があります。
- ・交通費・食費は自己負担になります。



病院ボランティアとは

- ・病院内で、病院職員と協力し合い、患者さまが安全で安楽に入院生活が送れるように、自発的に無報酬で奉仕活動をする人のことです。
- ・医療に関する専門的な知識がなくても、ボランティア自身の経験や技術を活かした活動、誠意ある心からの活動ができることがボランティアです。

気になる病気

脱毛症とその治療

毛包には成長期・退行期・休止期というサイクルがあります。正常でも1日50 - 80本の毛は抜け、その生理的範囲をこえて脱毛することを脱毛症といいます。

脱毛には、成長期に脱毛が起こる場合、休止期に脱毛が起こる場合・毛包がミニチュア化して脱毛する場合の3があります。

休止期脱毛は、毛包が休止期毛包に移行してしまう場合で分娩、発熱、内分泌異常などで起こります。成長期脱毛は、毛母細胞が急速に障害される円形脱毛症や抗がん剤による脱毛があります。男性型脱毛(若はげ)は、毛包がミニチュア化し脱毛します。

休止期脱毛症は自然治癒する場合と、原疾患の治療が必要になる場合があります。成長期脱毛のうち抗がん剤によるものは自然治癒します。円形脱毛症は何もしなくても治る場合がほとんどですが難治例もあり、その場合はいくつかの治療法がありますので以下にあげてみました。

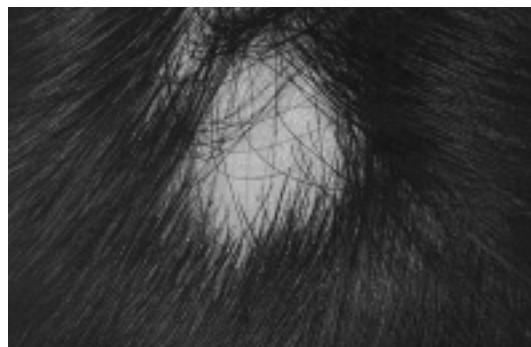
ステロイドは局所注射部に発毛を促します。20-45%の患者に有効ですが重症者には無効の場合があります。機序は免疫抑制効果と言われています。ミノキシジル(リアップ・ロゲイン)は市販されており、血流増加等により発毛を促進します。ひどい円形脱毛症の治療には免疫抑制剤やステロイドホルモンの内服を施行しますが、副作用も大きいため問題が残ります。また脱毛部にかぶれをおこすと発毛しますが機序は良くわかっていません。

男性型脱毛は毛包がミニチュア化した後、前頭部や頭頂部の脱毛が起こります。男性ホルモンの問題といわれ、阻害剤等が開発されています。その有効率は高いですが性欲減退等の問題があります。ミノキシジルも約7割に有効ですが、効果は数ヶ月で消失します。

以上、脱毛症に関して簡単にまとめてみました。脱毛の原因は様々で、治療法は疾患によって異なることが特徴とおもわれます。



皮膚科医長 坪井廣美



職 場 紹 介

●今回は形成外科／耳鼻咽喉科の紹介です。

形成外科

形成外科ってどんな科？

形成外科と聞いて、その診療内容が思い浮かぶ方は少ないのではないのでしょうか。一般の方々はもちろん、医療従事者でもなんとなくピンとこないというのが正直なところだと思います。他の科に比べ歴史が浅く、何処の病院にもある科というわけではないので、当然かもしれません。

形成外科が取り扱う疾患は、外傷（顔面や手足のけが・やけど・ケロイドなど）、腫瘍（できもの）、先天異常、その他（巻きづめ・眼瞼下垂など）に分けられます。上記疾患を主に手術という治療手段を使ってなるべく美しく治す科が形成外科です。（美容も形成外科の一分野ですが、現在のところ当院ではおこなっておりません。）手術を主とする科ではありますが実際の治療では手術を優先するのではなく、侵襲が少なく最も効果的な方法を選択して患者さまと相談しながら治療をすすめております。

今までこれは何処の科に受診したら良いのだろうと迷われていた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。上記の疾患についてお悩みの方はぜひ形成外科を受診し御相談ください。



筆者 後列左から3番目

形成外科 医長 高瀬 税

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は現在、常勤医2名体制で診療に従事しております。この4月より榊原敦子医師が赴任しましたので、この機会に皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

主な診療内容は、日頃より近隣の先生方からも多くの御紹介をいただいておりますように、咽喉頭炎や中耳炎を代表とする急性炎症性疾患や突発性難聴・末梢性顔面神経麻痺・慢性副鼻腔炎などの、いわゆる一般耳鼻咽喉科疾患が中心です。

また、今年は記録的なスギ花粉の大量飛散となりましたが、以前より当科ではアレルギー性鼻炎に対するレーザー治療を行っております。局所麻酔で所要時間は片側数分でできますので、毎年投薬のみではコントロールの難しい方には良い治療法の1つです。もちろん適応がありますので、まずはご相談いただければ幸いです。

最近では近隣の耳鼻咽喉科の先生方からはもちろんですが、他科の先生方からの御紹介も多く、大変お世話になっております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



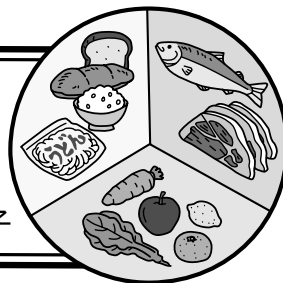
筆者 前列左から2番目

耳鼻咽喉科 医長 山田 昌宏



栄養相談について

栄養管理室長 川村 美和子



筆者は前列右側

栄養相談に来たことはありますか？栄養相談室は2階小児科外来の向かい側にあります。毎日10件近く依頼があり、1回30分～40分の予定で実施しています。「糖尿病で血糖値があがってしまった」とか「高血圧で塩分制限が必要といわれた」「コレステロールが高くて」「尿酸値が高いといわれた」「胃の術後で食事の注意点は？」「減量しなさいといわれた」等々食事に関する相談を行なっています。

最近では食生活が乱れ、1日3食食べている方が少なくなっています。また、テレビや雑誌など、マスコミやインターネットからも情報が飛び交い、情報量だけがたくさんになり、なんでも体に良いと言われたものはすべて実行し、かえって偏った食事になってしまっている方も時々、見受けられます。栄養相談でのちょっとしたアドバイスでかなり改善される方もいます。ただ食事なので、お薬のように早急に改善することは困難ですが、間違った食習慣を見直し、良い食習慣を身に付けていくと、かなり検診時のデータを改善できる方もいます。食事の自己管理ができると、生活習慣病を回避することもできます。

正しい食習慣を身につけることは生活習慣病の予防だけでなく、低栄養の回避もできます。最近では高齢者の低栄養が問題となっています。1人暮らしの方、ご夫婦2人暮らしの方など、食事の管理が少数になるに従い、おろそかになりがちですが、簡単な食事であってもポイントさえはずさなければ、低栄養にはなりません。きちんとごはんの主菜（タンパク源）と副菜（野菜の料理）を揃えて食事をしていますか？

めんどうだから菓子パンやおだんごやまんじゅうといった糖質のみに偏っていませんか？1日2食になっていませんか？1日2食ではタンパクやビタミン・ミネラルなど確実に不足してきます。

「食事」は毎日のことであり、それも1日1回でなく、3回もあるのでその管理は大変です。最近では自宅で食事をつくるのではなく、外食やコンビニ中心の方、スーパーの惣菜中心の方など食事スタイルも多様化しています。

栄養管理室ではその方のライフスタイルに合わせた食事指導を行なっています。食事は個人個人違って当たり前です。その個人個人に合わせた食事プランを作成しますので、自分の毎日の食事が心配な方は一度、指導を受けてみてください。毎日の食事の見直しをして、健康な毎日を送りましょう。

栄養食事指導をご希望の方は担当の主治医に申し出てください。

個人指導は予約制となっておりますが、忙しい方のために診療当日でも受けられる随時指導も実施しております。栄養管理室では4人の管理栄養士が栄養食事指導を担当しております。ぜひご依頼ください。

行事等紹介

第3回糖尿病フェア



副臨床検査技師長 小松 和典

いまや糖尿病は国民的な疾病となり、療養について我が国だけでなく全世界で関心が高まっています。糖尿病は4つに分類されますが、その中でも2型糖尿病は、生活全般の自己管理が治療の成果を左右する、いわば自己の生活管理が大切な疾患です。そのため当院では、医師、看護師だけでなく、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士などのさまざまな医療職が「糖尿病チームケアユニット」として、一人ひとり

りの患者様に対して、より効果的な療養支援を行っています。

その活動の一つとして、糖尿病で入院している患者様とそのご家族や外来に通院されている患者様をはじめ、糖尿病に関心のある地域の方々を対象として、毎年、「糖尿病フェア」を開催し、糖尿病に関するさまざまな相談や最新情報の展示などを行う場として開催してきました。

今年は、5月25日(水)に開催し、年々内容も充実し参加者も増加して盛況になっています。今回は、あなたの糖尿病が将来どのように変化していくかをシミュレーションしてみました。血糖値の状態が良くならない場合、喫煙や高血圧などを放置した場合などのファクターを設定し、将来どれくらいの確率でどのような症状になるかなどをシミュレーションしてみました。参加された皆さんにはハラハラ・ドキドキしつつも、とても興味ある内容だったようです。お昼はバイキング形式で食事をしていただきましたが、摂取カロリー数を意識しての、ひと味違ったランチバイキングでした。そのほか、体脂肪や血糖値測定の実演、お薬や運動についての相談などや、自宅でする足のケアについての指導もありました。その他、低カロリー食品や自己血糖測定器などの糖尿病関連グッズの展示もありました。

参加者からは、「この頃血糖値が気になっていたけどやはり高めだったので、今度、診察にきます」、「食事療法がよくわからなかったけど、だいぶわかりました」、「シミュレーションをもっと詳しくやってほしい」などの反響があり、主催者として大変うれしく思っています。

また、開催に際しましては、当院の糖尿病患者会である「戸塚さくら会」の皆様にご協力をいただきました。心より感謝を申し上げます。

今後もこのような行事も含め、当院の糖尿病診療全般について、糖尿病チームケアユニットが中心となって担当していきますので、ご意見やご要望がありましたら、是非お知らせ下さい。

第8回救急救命士症例検討会のご案内

日時 7月19日(火) 10:00~12:00

場所 横浜医療センター 大会議室

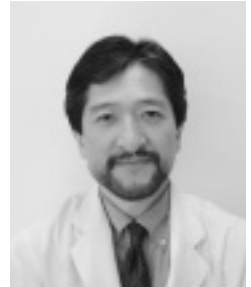
今回は、外傷をテーマにしました。交通外傷による下腿刺入創(杵創)の1例と、横浜市消防局で作成した「外傷傷病者に対する活動要領」に基づいて、病院前観察・処置やトリアージを含めた取り扱いを紹介します。模擬患者を使って実演し、説明しますので理解し易くなっております。また、最近全国展開をされ始めたJPTEC (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care) を解説する予定となっています。

本研究会は、救急医療の質の向上を図るために、横浜市メディカルコントロール協議会の下に、横浜医療センター 救命救急センターと戸塚区、泉区の救急救命士会が中心となって準備、開催を致します。

救命救急センター 山本 俊郎
藤田誠一郎

研修医紹介

昨年から施行された新制度医師卒後研修制度も2年目を迎え、現在11名の研修医が当院で研修を行っております。昨年当院の研修医として採用された金澤先生、松浦先生は元気に2年次の研修中です。横浜市大から2年次のたすきがけ方式研修医として出島先生、吉田先生が来られました。1年次研修医は当院採用の4名（五百川先生、遠藤先生、藤村先生、善積先生）と横浜市大たすきがけ研修医の須郷先生、山梨大学たすきがけ研修医佐々木先生、渡辺先生の計7名です。2年次の必修である地域医療研修に関しては、戸塚区医師会の先生方と戸塚区福祉保健センターに御協力をお願いしております。研修医教育に御理解と御協力を宜しくお願い申し上げます



教育研修医長
椎名丈城

研修医自己紹介



出島 徹

昨年まで横浜市大病院で研修していました。市中病院での2年目研修、頑張ります。



遠藤 聡

はじめまして。遠藤聡と言います。将来は脳神経外科を希望しています。よろしくおねがいします。



須郷 慶信

まだ迷惑ばかりかけてしまうと思いますがよろしくおねがいします。



吉田 佐知子

1年間はあっという間かと思いますが、よろしくおねがいします。



藤村 奈緒

二年間でたくさんの方の事を学びたいと思っています。



佐々木 真理

小柄な事を感じさせないやる気と熱意で頑張ります。よろしくおねがいします。



五百川 仁見

「人生我以外みな師なり」先日患者さんから説法いただきました。



善積 哲也

秋田大学から来ました。宜しくおねがいします。



渡辺 勝

研修医なのにおっさんですが、一生懸命がんばりますので、よろしくおねがいします。

◆◆◆ 医師の人事異動 ◆◆◆

(H17.4.2~H17.7.1)

退職者				採用者			
発令年月日	氏名	職名	退職後の施設名	発令年月日	氏名	職名	医大卒年
平成17年4月30日	日紫喜裕子	放射線科医師		平成17年6月1日	野登はるか	消化器科医師	H15
平成17年5月31日	西山 潔	統括診療部長		"	遠藤あかね	整形外科医師	H13
"	高山 敬子	消化器科医師	東京女子医科大学病院				
"	森下 慶一	消化器科医師	東京女子医科大学病院				
"	櫻井 梨江	整形外科医師					

消防訓練



教員 佐藤朋子

平成17年5月17日(火) 消防訓練が行われました。
看護学校1・2年生が参加し、消火器による消火活動、救助袋による学生寮4階からの非難訓練を体験しました。

消防訓練(看護学校)に参加して

43回生 橋本琢磨

まず、学生寮4階から外まで救助袋を使って滑り降りる訓練を行った。待機姿勢時に恐怖を感じたが、滑り降りる時間はほんの一瞬であった。着衣の材質等で滑り降りる時間に差があった。

次に消火器を使った訓練を行った。まず大きな声で「火事だ!」と叫ぶ。次に消火器を持ち火の手前まで移動する。そして消火器の安全ピンを外し、ホースを構え、レバーを引き消火器発射。重要な事は大きな声で火災を知らせる事、他の人と協力して消火活動を行う事である。

最後に指導員から火災についての説明を聞いた。今回の訓練は普段は体験しない事ばかりでとても参考になった。火災は身近なものだ。普段からこうして訓練を行い非常時に備える事が大切である。

消防訓練(病院)を実施して

庶務班長 櫻井 明

6月20日(月)、当院消防計画に基づく消防訓練を実施しました。

梅雨空で天候が心配される中、前週までの天気予報が見事に(?)外れて多少地面が湿っていたものの予定どおり行うことができました。

今回は、西4階病棟下膳室を出火場所とし、通報、消火(消火器、屋内消火栓による)、避難所(自衛消防本部、救護所とともに駐車場に設置)までの避難誘導訓練を柱としたとした総合訓練(昼間想定)です。

西4階病棟(呼吸器疾患など)が火元であり、人工呼吸器を装着しているなど様々な状況の患者をいかに安全にかつ速やかに避難させるかということが今回のテーマになりました。出火場所の位置から、病棟への応援、避難所までの避難誘導には狭い非常階段を使用。担送患者2名、護送患者3名(人工呼吸器装着、酸素吸入などを設定)、独歩患者10名の模擬患者は看護学生の参加を得ました。

訓練にあたっては、戸塚消防署及び同大正消防出張所のご協力をいただき、講評では、全体的にスムーズに進行した一方で、訓練態度(歯を見せていた)などの指摘がありました。

避難誘導訓練終了後は、屋内消火栓を実際に使用し、中庭において消火班による放水訓練を実施しました。

各部門との打合せも十分とは言えず、シナリオどおりにいかないこともありましたが、今回の結果について、大正消防出張所長の講評・アドバイス、参加した職員の意見なども踏まえ、次回の消防訓練の計画や消防計画の見直しなどに役立てたいと思います。



災害医療活動

平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震に際し、被災地に災害医療班を派遣して災害医療活動を行ったことに対し、当院は国立病院機構理事長から表彰を受けました。



内科医長
笠木陽子



看護師長
浄泉英子



副看護師長
中田佳代子



製剤主任
高橋省三

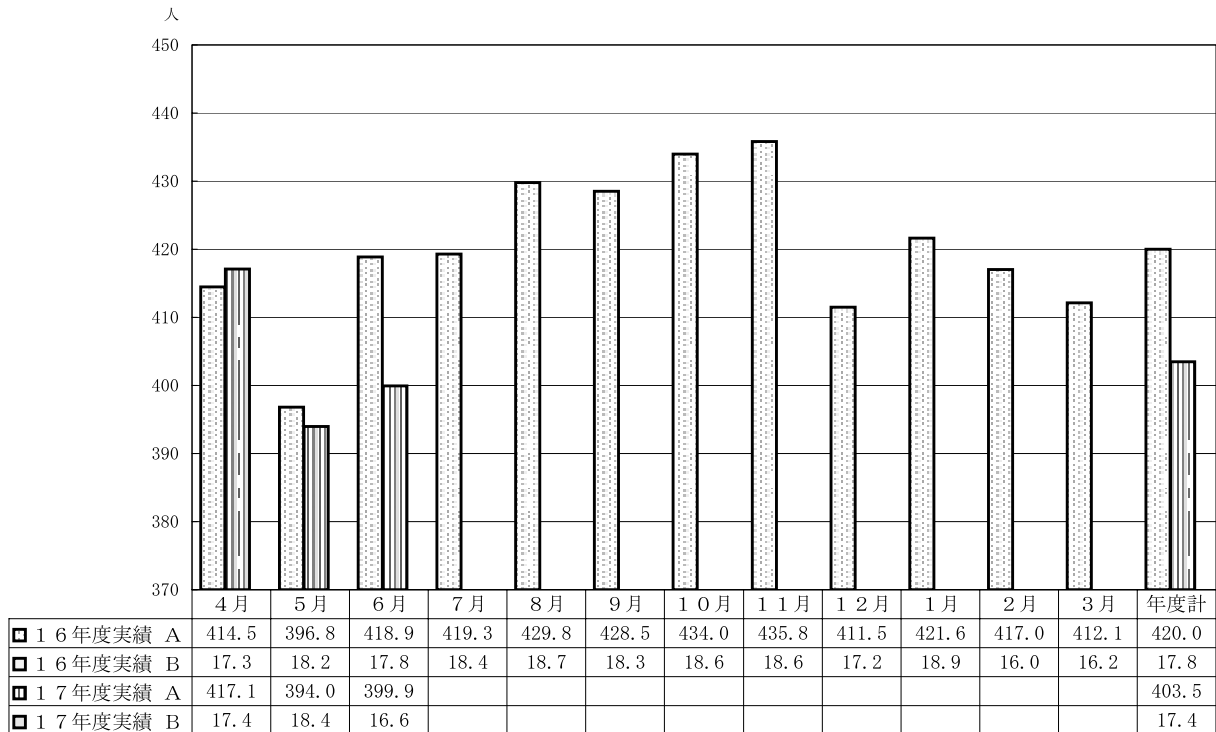


業務班長
福原栄二

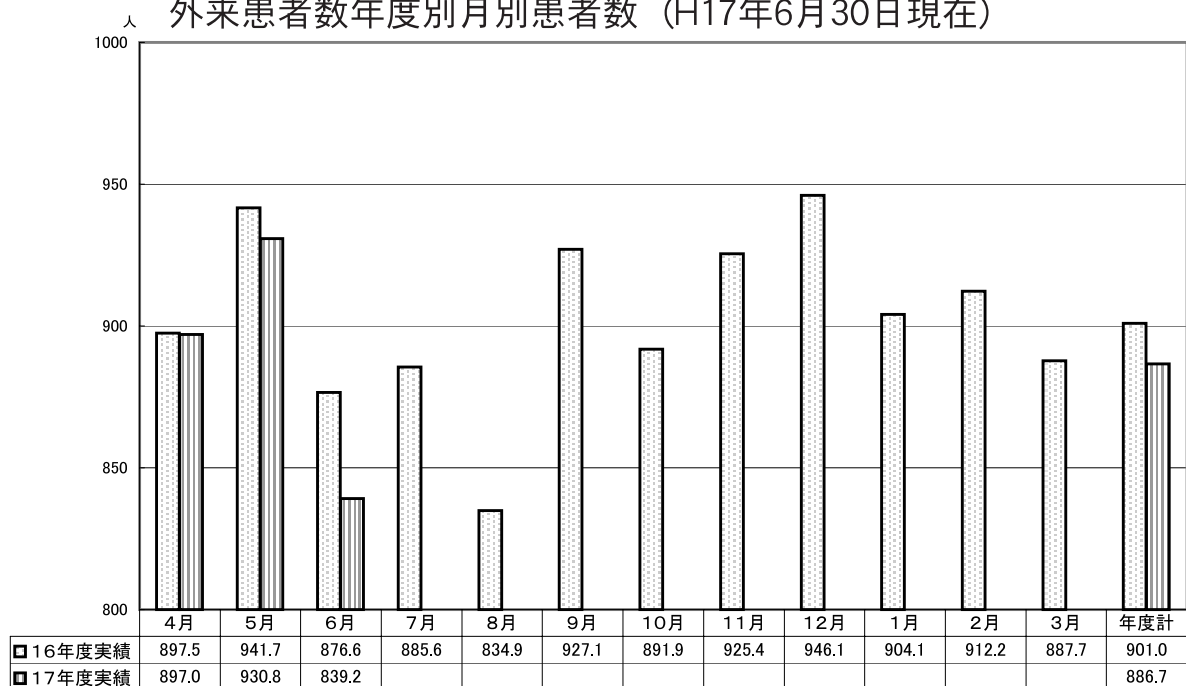


患者数の動向 ～1日平均～

入院患者数年度別月別比較（H17年6月30日現在）



外来患者数年度別月別患者数（H17年6月30日現在）



編集後記

私は、動く機械が好きだ。…(^.^) 電車・飛行機・船・自動車・スペースシャトル等々、子供がこれらにあこがれるのと同じである。現在は、スペースシャトルは当然のごとく、その他の乗り物もコンピュータの恩恵を受けている。私が免許取り立ての頃は、まだ手動式のチョーク仕様の自動車が数多くいた。コンピュータ制御のない時代の車は、寒い冬の朝、エンジン始動に苦労したという話をよく聞いたものである。最近の自動車では、ナビゲーションシステムから始まりエンジンの制御はもちろんブレーキやトラクション、ヘッドライトの照射位置などまでコンピュータ制御や電氣的制御を行っている。現在は、寒い冬の朝、エンジン始動に苦労することはあり得ないし、全て電気コードがついた機器に、我々素人がメンテナンスできるものもない。従って、エンジンルームをのぞき込む事が無くなり、愛着がなくなっていく現代に少し寂しさを感じていたら、転勤（千葉）となりました。

阿部光雅

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科・初診内	交代医師 高木 佐知子	高木 佐知子	大野 美香子	大野 美香子	大野 美香子	△:午後のみ診療 ▲:紹介状持参の方のみ
神経内科	上木 英人	△高橋 竜哉	検査日	上木 英人	検査日	
呼吸器科	榎原 基史	検査日	松本 裕	検査日	榎原 基史	
消化器科	交代医師	塚田 百合子 △小松 達司(肝)	松島 昭三 岸野 真衣子	清水 健 交代医師	小松 達司	《循環器科新患当番医》
循環器科	青崎 正彦 巽 藤緒	加藤 丈二 岩出 和徳	田中 直秀	▲田中 直秀	岩出 和徳 米村 文雄	(月)第1, 3, 5, [米村]・第2[田中]・第4[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)加藤
アレルギー科	青木 昭子	検査日	検査日	△武田 由希子	武田 由希子	
心療内科	検査日	加藤 英之	検査日	小澤 篤嗣	検査日	完全予約制。受診希望の方は事前にお問い合わせ下さい。 表は再来担当医初診医は原則別の医師となります。
精神科	立山 哲也 中川 牧子	小澤 篤嗣	加藤 英之	立山 哲也	小澤 篤嗣	
小児科	伊部 正明 石田 華	渡辺 由佳 伊部 正明	伊部 正明 大濱 有子	伊部 正明 能本 紀子	渡辺 由佳 伊部 正明	
外科	牧野 洋知 佐藤 靖郎	関戸 仁 土井 卓子	◇大滝 修司 ○若杉 純一	土井 卓子 田辺 美樹子	◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◇:第2・4水曜日 予約制 ◆:予約制
		★田辺 美樹子			坂本 和裕	○:毎週予約制 ★午後診療のみ
	呼吸器外科				坂本 和裕	
整形外科	三谷 秀俊 村瀬 知男	日塔 寛昇 三谷 秀俊	三谷 秀俊 葉梨 大輔	日塔 寛昇 村瀬 知男	日塔 寛昇 村瀬 知男	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30～10:00
形成外科	高瀬 税	遠藤 あかね 手術日	村上 恭平 △高瀬 税	遠藤 あかね	村上 恭平	△:手術日のため午前のみ
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師	竹本 安範	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫	▲ 第1・3・5週(火)・松永 成生 第2・4週(火)・宮原 宏輔
心臓血管外科	東館 雅文 手術日	検査日	大野 英昭	東館 雅文		
皮膚科	坪井 廣美 松井 矢寿恵	坪井 廣美 松井 矢寿恵	坪井 廣美 松井 矢寿恵	坪井 廣美 松井 矢寿恵	坪井 廣美 松井 矢寿恵	
泌尿器科	山本 都美 本田 直康	山本 都美 本田 直康	山本 都美 手術日	山本 都美 石川 弥	山本 都美 本田 直康	
産婦人科	中村 秋彦 永田 順子	外村 光康 紅露 有子	中村 秋彦 外村 光康	(新患のみ) 中村 秋彦	永田 順子 中村 秋彦	
眼科	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	急患・新患のみ(手術日)	(受付) 初診・予約外再診とも 月～木曜日 8:30～10:00 新患・急患のみとなります。金曜日 8:30～9:30
耳鼻咽喉科	山田 昌宏 榎原 敦子	山田 昌宏 榎原 敦子	手術日	榎原 敦子	山田 昌宏 榎原 敦子	
放射線科	栗原 須生美 ※注①	中山 優子 ※注②	日下部 きよ子 (甲状腺外来) ※注③		中山 優子 ※注②	※注①月曜日 8:30～11:00【完全予約制】 ※注②火・金曜日13:30～15:00【予約は内線4900まで】 ※注③診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
歯科口腔外科	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子	手術日	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子(午前のみ)	新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)【可能な限り】 新患は、火・木曜日の午前8:30～11:00まで。再診(完全予約制)。
専門外来 (午後のみ)	小児	発達(熊本)第2週 第4週 感染免疫・ぜんそく (伊部)	感染免疫・ぜんそく (伊部)	予防接種 石田・渡辺 (伊部)	乳児検診 (熊本・大濱)	喘息 (石田・渡辺) 神経(武下) ※第2週
	外科			癌化学療法外来 (午前診療)	乳癌外来 ※注④	※注④ 横浜市乳癌検診の受付: 13:30～15:00 乳癌検診
	女性 診療 外来	※注⑤			乳腺外来 ※第2週	※注⑤担当医:外科土井、大田・内科青木・皮膚科坪井・婦人科紅露 女性のための総合診療をめざす外来です。 完全予約制ですので電話で予約をして下さい。婦人科は非常に混雑しているため受診を希望される方は、予約の際に必ず申し出て下さい。心療内科受診を希望する方は、女性診療外来を受診して予約を取る必要があります。お手数をおかけしますが、よろしくお願い致します。
	脳外			脳ドック (要予約)	癌化学療法外来	
	産婦	母親教室			母乳外来	
	耳鼻	補聴器外来 腫瘍外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来
	アレルギー					交代 ※注⑥
循環		ヘルスメーカー外来 ※注⑦				※注⑥ 第2・3・4・5週:米田 13:30～ 完全予約制 ※注⑦ 第2・4週火曜日午後 必ず事前に連絡して下さい。

初診受付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
再診(予約外)受付:平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
休診日:土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

